

〈地域〉と〈大学〉をつなぐ 経験値教育プログラム

Newsletter

No. 4
Jan. 2016

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
地域連携推進機構

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1
Tel:06-6429-9921 Fax:06-6422-8523
E-mail:chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/>

大岡山プロジェクト

本学では兵庫県の「大学による地域力向上事業」の採択をうけ、人間看護学科・児童教育学科で「0歳～100歳が共に生きる「のびのびタウン」—地域資源を活かした安心・安全な街づくり—」に取り組むことになりました。その一環として、2015年9月26日、27日に、人間教育学部児童教育学科大江ゼミの3年生が「大岡山プロジェクト 地域探検ワークショップ」に参加しました。この



ワークショップは、本学大岡山グリーンキャンパスの立地する兵庫県豊岡市日高町を舞台として、豊岡市教育委員会、豊岡市

立清滝小学校、清滝区長会のご協力を得て、学生と小学生が、校区内の史跡などをめぐりながら地域の暮らしの今昔を学習するものです。

まず26日は、豊岡市立歴史博物館—但馬国府・国分寺館—を見学したうえで、博物館による資料提供、助言をうけながら日高町の歴史を学びました。打ち合わせのあとは実際に現地をめぐり、翌日のワークショップで実際に小学生とめぐるコース設定について話し合います。今回は十戸、栗栖野の二地区にしぼってプログラムを設定しました。十戸では「水」をテーマに、十戸の滝や湧き水、

弘法大師と水の伝承、わさび栽培やニジマス養殖をめぐるコースを設定しました。栗栖野では「石」をテーマに、道の駅を起



点として神鍋火山群をめぐり、西国三十三所めぐりを模した石仏、岩倉古墳、風穴などをめぐるコースを考えました。

翌27日は清滝小学校の三年生17名が参加し、学生とともに十戸、栗栖野の2チームに分かれてワークショップを行いました。十戸ではニジマス養殖を行っている田村さんのご説明をうけ、日高町のゆたかな水資源について学びました。栗栖野では区長の小田根さんのご協力により火山群の歴史を学び、実際に古墳跡や風穴のなかに入ることでもできました。

地域探検を終えたあとは、振り返りのため小学校に戻りました。それぞれのチームが自分たちで撮った写真をもとに学習内容を話し合い、お互いの発見について発表を行いました。学校の授業だけで学ぶだけではなく、自分たちで歩くことで小学生たちも地元について改めて発見があったようです。



都市型ツーリズム

尼崎市内をフィールドに『0歳～100歳が共に生きる「のびのびタウン」』を目指した都市型ツーリズムのモデル事業を2010年から展開しています。本学の所在する尼崎市は、都市型地域課題が多く地域課題解決先進都市を目指しています。この現状において、都市型ツーリズムを提案することによって、この課題を解決し、魅力あるまちづくりを推進していくことは、尼崎市が進む方向と合致しています。本事業では、世代間、さらに学生と地域とが地域課題を共有し解決策を考えていくワークショップなどの活動を通して、地域コミュニティの強化に貢献していきたい



と思います。さらに、情報発信ツールを作成することにより、地域の人たちが地域の「良さ」を再発見し、「街を好きな人に出会うとその街が好きになる」ことを体感できる都市型ツーリズムの企画を目指しています。

現在、地域に住む人々と学生がともに地域の「良さ」を発見し、市内外の方々に情報発信できる仕組み作りを進めています。本学の人間看護学科・総合健康学科・児童教育学科の学生がそれぞれのフィールドで調査・研究し、それぞれの視点で共同の研究会（まちづくり解剖学）を実施しています。様々な専門性を持つグループが、地域の特性をフィールドワークによって把握し、専門性を活かしてすべての世代が生き生きと暮らすことのできるまちづくりの提案を目指して活動しています。



若者・いのち守り隊 ～私たちにできること～

若者の自殺予防

内閣府自殺対策推進室はわが国の自殺に関するデータを公表しています。過去37年間では、平成15年の自殺者が最も多く34,427人でした。その後、漸次減少し、平成24年には2万台になり、平成26年は1年間で25,427人が自殺で亡くなりました。この状況は、わが国で毎日約70人が、つまり約20分に一人が自殺で亡くなっていることとなります。兵庫県の自殺者は、HPによると、平成25年は1,180人、平成26年は1,147人で、平成10年に急増して以降、減少傾向にあります。しかし、年代別に平成25年、26年を比較すると、20歳、30歳代は増加しています。また、学生・生徒の内訳では大学生が最も多い結果となっています。

このような背景を踏まえ、兵庫県は、「若者・いのち守

り隊～私たちにできること～」という、学生が主体となっ
て行なう自殺予防支援補助事業の募集を行ない、本学「江
寄ゼミ（3年生）」でも取り組むことにしました。

1学期には、科目「健康学演習（ゼミ）」で、各自が書籍・
新聞記事・インターネット等で「自殺」に関する記事や内
容を集め、自分なりに考察し、「ゼミ新聞」としてまとめ、
発表しました。

「ゼミ新聞」の1部を抜粋します。「死をを考えてしまう
人には、どのような背景があるのか。どのような心境なの
か。自殺を考えるまでの経緯を知らないと、ずっと自殺を
したいと思う気持ちは理解できないのかなと思い、このこ
とを調べた。」「児童生徒が自殺に至るまでには、自殺をほ
のめかすようなものがあると思います。それにいち早く気
づき自殺を防止するために、養護教諭としてどのような関
わりをしなければならぬかを考えました。」

今後は、学内外を中心に、自分たちでできる啓発活動を
行なっていきたいと、準備中です。

ココみみボランティア講座

『母親にとって『いまココで、ココロ（心）にみみ（耳）を傾けてくれる人』が受け止めてくれれば子育てを続けていける』、尼崎市こども青少年局子育てコミュニティワーカーの内田扶喜子さんとの話がきっかけで、コミュニティで寄り添ってもらうにはどうするかがこの講座の始まりでした。内田さんと社会福祉協議会小田支部 足立事



務局長のご尽力のもと、婦人会メンバー約10名の受講が決定、親子を支えたいがどうしてよいか分からな

い祖父母世代に全4回のプログラムを提供しました。人間看護学科の黒岩助手・東本助教の協力を得て、「傾聴」の基礎や若者と祖父母世代の現状、乳幼児の発達を学び、ワークを体験して頂きました。受講者から母親へのメッセージは「子育ては『おっちら』と」。ゆったり落ち着いてママと子どものペースでいいですよ、そんなねがいを込めて修了されました。早速、母子との交流会で活躍、しなやかなシルバー世代の心強い子育て支援に、あまがさきの明るい未来と希望を実感しています。

(人間看護学科 教授 金岡 緑)

場所 小田支所
日付 6 / 22(月)・7 / 6(月)・7 / 13(月)
時間 14:00 ~ 16:00
参加 小田地区婦人会会員

地域志向科目 「つながりプロジェクト」開講

本学は、建学の精神「捨我精進」と大学の理念「他者と支えあう人間の育成」の下、一般社会で求められている主体性、コミュニケーション力、気づく力、協働する力、考え抜く力である基礎的な社会への適応力、汎用的能力・応用能力の養成に主眼を置き、本学学生の経験値を高めることを第一命題としています。これを実現するために、本学では地域志向教育として大学共通科目「つながりプロジェ

クト」を必修科目として平成28年度から開講します。この科目では、尼崎市の地域課題に則した「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」の4つを主テーマとし、行政やNPO、地域団体、地元の皆さんとともに課題解決に向けての企画、提言を行うことを目指します。学部学科に関係なくいずれかのプロジェクトに所属し、地域課題の探求と解決にむけての提案を行うことで、専門科目、実習で必要となる対人基礎力、對自己基礎力、対課題基礎力を養います。

経験値評価システム

本学では、多面的に課題に向き合う社会に有用な人材の育成を目指して「経験値教育」を行ってきました。「経験値教育」とは、地域での学びを通して、教室で学んだ理論と実践との結び付きを実感・理解し、さらに次の学びへと発展させ「知識」を「知恵」に変えていく循環型教育です。この「経験値教育」の更なる実質化のために「経験値評価システム」を導入しました。このシステムでは、活動時間、つながりを持つことができた人の数、活動範囲に応じてポイントを集積することができます。学生の活動は、学生自

身が行うアセスメント、教員が行うプロジェクト評価、地域の方々が行うつながり評価の3つを組み合わせることで評価されます。地域でどれだけの「経験」を積み、人間力を高めることができたかなどの結果が目に見える形で示され、次の指標の策定に活かすことが出来ます。評価システムを通して、学生の活動内容を深めるとともに地域活動の活性化を目指します。





われら尼っ子 100あまろく

2016年に尼崎市は市制100年を迎えます。市の100周年記念事業の一環として、児童教育学科大江ゼミでは尼崎の歴史をテーマとした「尼崎100周年すごろく」こと「あまろく」づくりに取り組んでいます。

これは各マスに市制施行以降のトピックを書き込んだす



ごろくを使って、小学生の子どもたちに遊びながら尼崎の歴史について学んでもらおうと企画されたものです。学生たちは100年の間に何が起こったか、年表をひもときながらトピックを選ぶところからはじめました。一年ずつ選ばれた100個のトピックから、さらに国道の開通や、駅の設置などインフラの整備、つかしん、アルカイックホールのように市民になじみ深い施設の建設など、親しみやすいものを選定します。なかにはよいことばかりでなく、大気汚染公害の訴訟や、空襲、震災、福知山脱線事故などの悲惨な事件もとりあげました。

10月に入り、すごろく全体のデザイン、イラスト案が学生から提案されました。武庫川、神崎川というふたつの川に囲まれ、阪急、JR、阪神の三つの鉄道が横断する尼崎市全体をイメージしたデザインに、尼イモや市の木「ハナミズキ」の花など、尼崎を象徴するイラストがあふれた、楽しいものになっています。

すごろくは12月に完成しました。家族で「あまろく」を楽しんでみてはいかがでしょうか。



まちの 相談室

学生の地域活動報告

まちの相談室は、つな Girl（学生地域連携推進委員会）と地域連携推進機構が運営しています。地域の方々からいただく学生向けイベントの情報やボランティア募集情報などを収集し学生へ発信しています。

まちの相談室への依頼により、「たちばな祭り」「お店で探検環境ウォッチング」「たそがれクリーンキャンペーン」「地べたフェス」などの多数の地域イベントにて本学学生がボランティア活動を行いました。

つな Girl は、尼崎青年会議所依頼の防災・減災のイベ

ント「カエルキャラバン」でブース出展や「サバイバルキャンプ」に参加、尼いもクラブ依頼の「尼芋奉納祭」でのブース出展にも協力しました。

つな Girl のほかにも、食物栄養学科（教職）の学生が「尼崎浄水場特別開放イベント」にブース出展、同じく食物栄養学科の深津ゼミ生は「尼崎市民まつり」で喫煙・禁煙にかんするアンケート調査の協力、養護実践研究会 SMILES は「地域総合センター神崎」にて定期的な活動を開始、近松人形劇部は「第58回ひょうご女性未来会議」で県知事や市長を前に「日本振袖始」を披露、わらべうた研究会は「公文式教室のお楽しみ会」を開催なども行いました。

